

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑥障がいのある子どもの理解

- ◆ 以前勤めていた児童クラブにダウン症の男の子が通ってくれていて、その子と試行錯誤しながらも楽しく過ごした日々を思い出してしまいました。支援対象児に対する指導者の見方、関わり方が周りの子どもに影響するということを実体験を通して感じたので、今後も忘れずにいたいと思います。障害のある子どもは個性があって、強い気持ち（好きなもの、好きなこと）を伝えてくれる目はいつでも真剣でした。合理的配慮を社会全体で行っていきたいと思います。
- ◆ 私が努めている学童クラブでも障がいを持つお子さんが利用しています。日々の業務において、どのように接していけばいいのかが分からず戸惑うこともありました。この講義を受けて、まず障がいを理解することと多様性を認めることが大切だと分かりました。特に「発達障害」は生まれながらにしての特性です。その子の得意なこと、できることを伸ばしていけるように支援員として援助していけたらと思います。
- ◆ 障がいの定義として、身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいがあり、そのような障がいを持つ子どもたちが充実した生活を送るためには、その基礎となる環境整備が必要だということを学んだ。また、障がいがあるからといって、周囲と同じようにできることを目標とするのではなく、その子の良さを本人や周囲に伝え、「できない」ではなく「～があれば～することができる」という前向きな考え方で支援することが大切だと思った。
- ◆ 障害の定義と発達障害について理解を深めることができました。LD、ASD、ADHD、RADと発達障害も様々で、それぞれの特性をきちんと理解することで、その子の困り感を減らし安定して過ごせるように支援することが大切だと学びました。しかし、同じ障害でも一人ひとり違いもあり、個々に目を向け理解することで、支援を適切に取り入れた環境をつくっていけるし、信頼関係の土台となると思いました。
- ◆ 今後役立つと思った内容は、ASDの子ども支援についてです。私が勤めている学童にASDの子どもがいます。どのような特徴があるのか分からず困ってしまったことがありました。今回の学習で具体的な声掛けなどの方法を教えていただきました。子どもが楽しいと思ってくれる場所になってほしいので、理解することの重要性を感じました。より良い学童生活になるように資料を基に職員同士で話し合っていきたいです。